

谷津田の暮らし① 小山町の季節の行事・後編

前回は季節の行事やそこでふるまわれる食事などについてのお話をまとめました。今月号では、子どもの成長を願う風習をご紹介します。ただ、今では、簡素化されたりしているようです。(文責編集部)

■帯祝い

妊娠5ヶ月の帯祝いに、「とりあげのじじ様、ばば様」をお招きしてお膳を囲みます。「とりあげのじじ様、ばば様」というのは、親と同じように子どもの行く末を見守っていただく方々だそうです。親戚や仲人をしていただいた方をお願いしたりするようです。

■生後三日目

母子ともにまだ入院中のこの時期に、ご実家では、ぼたもちを三つずつ包んだものを、「とりあげのじじ様、ばば様」や、ご近所に配る「三つめのぼたもち」という風習があるそうです。これは、子どものすこやかな成長を祈願して、行われるそうです。母親の母乳の出をよくするためにもち米で作られたぼたもちを配るのだそうです。

■生後百日目

先月号でもご紹介した小山町にある熊野神社は農作物の収穫を祈願するだけでなく、この地域の子どもの成長を祈願する場でもあります。

生後百日目というと、一般的には、お食い初めをしますが、このご家庭では特別なことはなかったそうです。そのかわり、熊野神社へのお宮参りをこの時期に行なったそうです。子どもを抱いて、お宮の周りを三回まわります。かけ着物（「とりあげのじじ様、ばば様」が用意し、プレゼントするそうです。）の白糸のかけ方で男女の区別があるとのこと。

■初節句

初節句でも熊野神社をお参りし、やはり、お宮の周りを三回まわります。その他、子どもの名びろめの意味合いも兼ねて、披露宴を行ないます。昔は自宅で行なわれていましたが、今では、式場を借りて食事をすることのほうが多いそうです。その式場に、お雛かざりや兜かざりなどを運び、お披露目をし、子どもの成長を親戚・近所一同祝うそうです。

「とりあげのじじ様、ばば様」に招待状を届ける際には、大きな「かごもち」という物を作り、差し上げます。直径30センチくらいののしもちをたらいのような大きな入れ物に入れて、その上に松の葉をちらしたものを、「かごもち」というそうです。

■七五三

七五三は、たいてい、数え年の七歳の時だけ行ない、熊野神社へのお参りをします。特別に作った絵馬に、子どもたちがこれからの思いを書き込み、それを奉納します。そのあと、母子が手をつないで神社のまわりを七回、右まわりします。神社には、こんぶなどの海の物、旬の野菜やお米などの山の物、榊、神酒（お酒の入った一升瓶に杉の葉をさしたもの）をお供えます。

お宮参りのあとは、ご近所や親類を招待して、この時にも披露宴をします。初節句と同じように招待状と一緒に「とりあげのじじ様、ばば様」に「かごもち」を持っていくそうです。

■茶あび

生まれて初めて迎える2月8日と七五三の年の2月8日に、疱瘡の予防として「茶あび」とよばれるこの行事が行なわれるそうです。

神棚の前で、手箕（ちりどりの役割を果たす大きなザルのようなもの）の上に子どもを座らせ、頭の上ののせたふるいから、ぬるめのお茶を数滴たらしめます。この日はお赤飯をたきます。



小山を見下ろす斜面林の中にある熊野神社



熊野神社には子どもたちの健やかな成長を祈願するお札がたくさん納められている。

カワニナ

カワニナという貝の名は耳にすることが多いと思います。ホタルの幼虫が食べる貝として有名ですね。カワニナは必ずホタルとセットなのです。しかしカワニナという貝のこと、それ以外はほとんど知られてないように思えます。

カワニナは淡水に生息する巻貝です。同じ淡水性の巻貝で知られているものにタニシがあります。カワニナとタニシ、両者には淡水性・巻貝ということ以外にもいくつかの共通点があります。まず雌雄異性であること、つまり性転換をせずオスとメスが存在すること。そして卵胎生であること、卵ではなく殻のついた稚貝を生むのです。両者はカワニナ科とタニシ科です。決して近い種類ではありません。さらに大きな違いもあります。それは形です、カワニナは細くて長



下大和田のU字溝の水路の底にカワニナがいました。腐った葉を食べていました(2010/5/23日 撮影;平沼勝男)

い姿、タニシは短くて丸みのある姿です。この違いは何を意味するのか？ それは両者の生息する場所です。カワニナが好む場所は流れのある場所、小川や用水路です。水田にはカワニナはいないのです。逆にタニシは水田のような止水域を好みます。カワニナの細長い形は水流からの抵抗を極力少なくするためのものなのです。

カワニナの分布域は日本全域にとどまらず朝鮮半島、中国そして台湾まで及びます。殻長は30mm、殻径12mm。殻頂(殻の先)が削れて短くなっている個体もよく見かけます。都市部の汚染された河川には生息しません。適度な流れがあり、落ち葉などが底に積もっているような場所が大好きです。水はきれいでも流れの速い溪流などには少ないです。水底の藻類や有機物を食べて成長します。冬季は水底の落ち葉の下や泥の中に潜り春を待ちます。ふだんは夜行性のため昼間よりも夜間に動きが活発になります。カワニナの天敵は当然ホタルの幼虫です。それ以外にもコイ、モズクガニ、サワガニ、ザリガニなどです。コイは大きなカワニナでも平気で飲み込み、喉のところで殻を砕き食べるそうです。大好物のようです。カワニナの繁殖期は5-10月で、先にも述べましたが卵胎生で、1-2mmの稚貝を数十個生みます。稚貝は産み落とされたときにはすでに殻を持ち、生まれたと同時に歩き回ります。

さてホタルとの関連ですがなんとと言ってもゲンジボタルです。ゲンジボタルの幼虫は偏食が強くこのカワニナばかりを食べます。他の種類の貝では消化がうまくできないようです。それに比べヘイケボタルはカワニナ以外にもサカマキガイやタニシも大好物です。ですからヘイケボタルはゲンジボタルより生息域は広く、逆に生息域が限られるゲンジボタルはこのカワニナが十分いるかどうかが重要な要素になっているのです。

そろそろゲンジボタルが始まる季節ですね、小山町の谷津田にはゲンジボタルとヘイケボタルの両者が生息しています。下大和田の谷津田にはヘイケボタルが生息しています。こちらは6月の末頃でしょうか。もし美しいホタルの光を眺める機会があれば、近くの流れの底にカワニナが元気に活動していることをぜひ想像してみてください。(平沼 勝男)

「あすみ田んぼ」の開設にご協力を

あすみが丘小学校長 川畑 悦郎

5年生の「社会科」・「総合的な学習」の学習で、米づくりの体験活動を行うにあたり、YPP 小山の皆様のご配慮で農家の方の田んぼをお借りすることができました。生き物がいっぱいの本物の田んぼをお借りして米づくりの学習できる環境を与えていただいたことに感謝いたします。

花壇をつぶし水色のビニールシートを張って田んぼを作っていた埋め立て地にある前任校では考えもできないことでした。

早速、ゴールデンウィーク後半の子どもの日に本校職員の有志で小山町の現地へ伺い、田植えが予定されている水田で作業を行いました。私自身、高校まで実家で細々と米づくりをしていた経験があり、40数年ぶりに水田にはいるのに興奮しました。

5年生の子どもたちが小山町の環境にふれ、さらに田んぼに入ってどんな表情を見せてくれるだろうかと想像するだけでも今から楽しみです。田植え・除草作業・稲刈り・脱穀・精米までの一連の作業を通して、日本の農業の中心である米づくりの一端を体験を通して学ばせたいと思います。また、米づくりの学習だけでなく自然の素晴らしさ、自然を保護することの大切さを身をもって体験させたいと思っています。

YPPの皆様には何かとお手数をおかけいたしますが今後もよろしくお願いいたします。

5月28日に大椎小学校、6月2日にはあすみが丘小学校、それぞれ5年生が小山町を訪れ、田植えと自然観察をしました。カエルになりたてのアカガエルが足下でピョンピョンはね、シオヤトンボが元よく飛び回る生きものいっぱいの田んぼに、子どもたちは歓声をあげながら谷津田での体験を楽しんでいました。詳しくは次号以降にご報告します。



里山たんけんレポート

第124回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2010年5月2日(日) 晴れ

今日は千葉校の生物部の生徒さん15名の参加があり、若い人の声飛び交う楽しい観察会となりました。集合場所前のU字溝ではヤマサナエが羽化の最中でした。周辺をカワトンボやシオヤトンボが飛び交っていました。U字溝の縁に大きなアオダイショウがとぐろを巻いていました。ひとしきり写真を撮ったりしていたら警戒して動き出しました。とにかく大きいので長さを計ってみようということで捕まえて数人がかりで身体を伸ばしました。ざっと160cmほどの大物でした。下流部たんぼ奥の向斜面林下川縁でカンアオイやトリカブトを見たり、谷津田の景観を楽しみ折り返しました。林縁の木の洞ではタイミング良く羽化直後の真っ赤なヨコズナサシガメを見ることが出来ました。道々トンボ、チョウ、カエルを捕まえ観察、水路では魚とり用の網を入れて探りながら一巡しました。午後はYPPたんぼ、小川、U字溝のいきものを採集記録しました。魚4種、貝5種、甲殻3種、昆虫4種、両生3種、他2種でした。

(参加者 大人17名、高校生15名、子ども8名； 報告：網代春男)

第108回・109回 下大和田YPP「みんなでわいわい！田起こし・田植え」

2010年5月8日(土) 晴れ

さわやかな天気恵まれ、たくさんの方が田起こしにかけつけてくれました。しつこくはびこる雑草を根っこから丁寧に取らなから作業は容易ではありませんが、皆さん元気いっぱい小山から借りてきた農具がいつも誰かが使っていて足りないほどでした。子どもたちは生きものさがしや泥んこ遊びに熱中。全身まっ黒けの元気いっぱいの子もいました。

(参加者 大人30名、 小中高生9名、幼児10名； 報告：高山邦明)

2010年5月15日(土) 晴れ

この日も多くの方が千葉市緑区下大和田の谷津田に集まりました、前々回のYPP「稲代づくり」の時と同様に、こども交流館の皆様、およびCEICが募集したたんぼ10回講座の皆様との共同作業となったためです。前々回の稲代づくりのときに種撒きをしました。それから35日が過ぎ、ビニールトンネルの保育室の中の稲は10cm程度に育っています。この日のお天気は晴れ時々曇り、気温はやや低めですが作業にはちょうどいいくらいです。この日の作業で最初にやらなくてはならないことは、稲代から稲を取り出すこと。最初は稲にダメージを与えないかおっかなびっくりといった感じでしたが、しばらく作業を続けると稲の意外な丈夫さに気がつき次第に作業が早くなります。この日の稲はコシヒカリと古代米の緑米でした。種類を分けてたんぼに植えていきます。田植が初めての方が多いのですが、あらかじめスタッフが用意した目印もあり効率よく予定の田植えを終えることができました。たんぼの周りの子で川や森で遊ぶ人、田植えをする人、それを受け入れる谷津田。メダカ、ザリガニ、オタマジャクシ、シュレーゲルアオガエル、たくさんの生き物にも出会えました。参加された方々は春の谷津田を満喫されたことでしょう。



にぎやかな田植えが終わって記念撮影(撮影：田中正彦)

(参加者 大人30名、 小学生以下21名； 報告：平沼勝男)

2010年5月15日(土) くもり

前日の残りの田植えをしました。この日植える稲は農林1号、緑米、赤米、黒米です。昨日と違い小人数での田植えとなりました。この日は経験者が多く説明もなしで朝から着々と作業を進めます。昼食をはさんで作業終了は夕方4時でした。少々きつかったのですがさすがに達成感がありました。これで今年の田植えは予定通りにできました。みなさまお疲れ様でした。

(参加者 大人13名、 小学生4名、幼児2名； 報告：平沼勝男)

第55回 小山町YPP「田植え(その1)」

2010年5月29日(土) くもり

5月も終わりというのに肌寒い陽気の中、たくさんの参加者が集まってくれました。前日、学校たんぼに田植えをした大椎小学校の子どもたちの姿もたくさんあってうれしいかぎりです。当初はコシヒカリを植える予定でしたが、地元あすみが丘小学校の5年生も今年から小山で米づくり体験を始めることになったことから、苗の様子を見るため、古代米の赤米と黒米の田植えをしました。少し前に草取りをしたたんぼに再び草が生えはじめていたので、最初に草取りをし、それからロープに沿ってみんなで一斉に田植えをしました。ちょっと深いたんぼなので泥に足をとられてなかなか大変でしたが、一人も尻もちをつくことなく無事田植えを終えました。子どもたちは泥遊びで全身真っ黒でしたが、気温が低いのが気がかりで、うまく育ってくれるのを祈るばかりです。

(参加者大人13人、小中学生15人、幼児3人； 報告：高山邦明)



<谷津田・季節のたより>

小山町

- 5月2日 渡りの途中と思われるキビタキのさえずりを聞く(高山)。
- 5月21日 ホトギスの鳴き声を聞く(齊藤)
- 5月28日 上陸したてのアカガエルが田んぼの畦でたくさんはねている。上空をホトギスがしきりに鳴き渡る。アシ原からはオオヨシキリのさえずりも聞こえる。シオカラトンボの羽化を初めて確認(高山)。

下大和田

- 4月末から5月7日頃 ヤマサナエ(トンボ)がたくさん羽化した。道脇のU字溝で羽化殻(ヤゴの脱殻)を採集して数えたら全部で176あった(網代)。
- 5月上旬 ニホンカワトンボが水辺をたくさん飛び交っていた(網代)。
- 5月16日 小山に続いてキビタキのさえずりを聞く(高山)。
- 5月19日 下大和田の谷津でホトギスの声を今年初めて聞く(網代)。
- 5月28日 田んぼに大きなクサガメがいた(網代)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第110回 下大和田 YPP「田んぼの草取り」

梅雨の季節を迎え、ますます元気よく生長する田んぼの草取りをします。赤とんぼの仲間が羽化する季節です。自然観察もしますのでお楽しみに。

日時: 2010年6月19日(土)、10:00~14:00、小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴(長め、できればホームセンターで販売している田植え用長靴)、軍手、敷物など。

参加費(資料代等): ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第126回 下大和田 7月の谷津田観察会とごみ拾い

カブトムシやクワガタムシが樹液に集まる季節です。樹液に集まる虫を観察しましょう

日時: 2010年7月4日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)

集合: 下大和田 YPP に同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

大切なお知らせ

6と7月の2ヶ月間、下大和田でいつもお借りしている駐車場が使用できなくなりました。お手数ですがバスを利用して下さいますようご協力をお願いします。どうしても車を使う必要がある場合には事前にちば・環境情報センターまで電話(043-223-7807)あるいはメール(hello@ceic.info)でご連絡をお願いします。

編集後記 2002年3月に発行をはじめた谷津田だよりが気づくと今月で100号を迎えていました。谷津田の生きもののこと、米づくりや自然観察など活動のことについて様々な記事が掲載されてきましたが、まだまだ書くことがたくさんあり、谷津田の魅力の奥深さを物語っています。これからも谷津田の魅力を伝え、自然のこと、暮らしのことを記録に残していきたいと思えます。皆さんからの投稿も大歓迎です。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

(高山邦明)